

キリシタンの墓

小山牧子
え・石阪春生

父と娘（2）

あらすじ 二年前短期大学を卒業した佳は、母親蘭子との生活の息づまりを感じ、米国系海運会社のエイジェントに勤めに出ることにした。ある夜バスのヒギンズ氏とともに訪れた廟成寺の墓地の暗がりで、村重船長と呼ばれる老人に会い、佳はこの老人から自分の父のかくされた秘密をさぐりだそうとする。そして、その父裕作が七ヵ月近く航海を終えて神戸港に還ってくる日がやってきた。

「では、また……」

聞きなれたバスの声を夜の岸壁に響かせ、敏捷な身のこなしでしんがりに上陸してきた男、それが佳の父、村林裕作であった。ずつしりと中身がつまつていそうなスリッ・ケースを軽々とぶら下げ、白っぽいトレーナー・コートの背が若々しい。

「パパ……」

の表情はない。が、佳は、久しぶりに故国の街へ帰つてゆこうとするもの静かに抑制された男の胸にあふれる娘への愛を黙つて受け止めていた。

この瞬間、そうだ、この瞬間、いつも鼻の奥がキューとなつて、何か話そうとすると声がふるえて涙があふれそうになつてしまふ。だから、佳もまた黙つて歩く、黙つて……。

「どう？ ケイ……」

ときどき気まずまりな恋人同志かなにかのよう、裕作が意味をなさぬ問い合わせを娘に発する。と、

「うん。まあどうにか……」

娘もまたしどろもどろに答え、再び沈黙の時間が流れれる。

港界隈の暗い倉庫の屋並をぬけると、そこはまばらな灯に彩られたビル街であった。ビルの谷間の底を、海からぬるまつた風が這い、雨期が近づく前の街路樹の葉群は、この石の街では奇妙になま臭くにおうのである。やがて、ガス体が燃焼しているかのよう、街の灯が炎の海となつて広がる一角、快樂の街が近づく予感が、二人をそそのかしたのかどうか、

「ケイと一緒に食べようとおもつて、船の食事のことわ

つたんだ」

「ま、いいわア、パパ！」

いつもそうであるように、その夜も佳は、港を遠ざか
るにつれて本来の言葉と表情を取りもどしていった。し
かし、深刻に、こみ入って話すのはまだいけない。また
涙が出る。泣けてしまう。だから、つとめて必要以上に
子供っぽく振舞つているのだ。

「パパア、ここにケイのおみやげ入ってるの？」

父の手から、スーツ・ケースを引つさらおうとする。
が、それは持ちあげるとよろけそうになるほどに、す
りと重い。

「まア、パパ。また酒ビンなの？」

「う、うん……」

細めた目でてれれぞうに佳を見る裕作に、「だめね、
パパ。それだからママに嫌われちゃうんだ」
言つてしまつてから悪い冗談であつたことに気すき、
おずおずと父の顔を見る。

「なに会社の連中の頼まれものなんだけど」

「ふん、どうだか」

裕作は、いつの上陸のときも、ジョニイ・ウォーカー
の黒ラベルやヘネシなど、スコッチ・ウイスキーのた
ぐいを関税免除の携帯品として岡に持ちこんだ。裕作自
身も酒好きだったことはたしかだが、そんなふうにして
手に入れた土産品は、地上勤務になつてゐるかつての同
僚や上司をこの上なく喜こばせることは、佳もよく知つ
ていた。

「どこかいい店があるの？ 近ごろは、ケイの方が、うま
いものの店にくわしいだろうから」
「もちろんよ。パパが帰つてきたら一緒に行こうとおも
つて、一番いってみたいお店行かすにとつておいたの」
「そりやアいい。だつたらそこへ案内してもらおうか」
父を迎えて港を行つた夜がそうであるように、そのと
きも佳は、機敏な仕種でタクシーを呼び止め、裕作を先
に立てて車に乗りこんだ。

「花隈！」

佳が運転手に指示したスナック・レストラン『薔薇屋



敷』は、国鉄元町駅の構内を山側に抜けたすぐ近くにある。庭に面して耀く、ばら色の灯に彩色された広いウインドウは、夜の闇にうきあがると、店全体が、さながら六面にカットされた宝石の塊りに似て華麗であった。が

部屋の一隅でもかいあつて席についたとき、佳は落付きなくあたりを見わたし、軽い舌うちをした。

「どうした？ ケイ」

「だつて、ママの同類がたくさんいるみたいだもん」

佳の言葉の通り、店内には、深刻そうな顔の男たちがグラスを前に黙念と坐つて、髪を長くした個性の強そうな女が、何事かをまくしてているらしく、時折彼等の会話の断片が、二人の耳にとびこんできたりするのである。たとえば、若い女の高い声が、

「私、絶対に一人の男だけを独占する結婚なんて形式のぞまないわ。だって、結婚すれば、必ず相手を不幸にするのわかっているのだもの。私の内部にはねえ、悪魔が百匹も住んでいそうな気がするのよ。いいことをする妖精だつて少しほはいるらしいんだけど……」

すると、すでに朦朧としているらしい男の声で、

「きみは結婚するさ。そして、男を不幸にしてやればいいんだ。ねえ、ママ、そうだろ？ 女なんて、男を不幸にするように生まれてきてるんだ。女というシロモノはねえ、混沌なんだ。コントン……いいかカオス……カオスなんだなア」

日本語で相手に通じてゐる言葉を、御苦労なことに、もう一度、外来語に言いなおしてたたみこむ。蘭子の同類の男たちには、一様にその種のコッケイさがあった。

「佳も文化人が嫌いか？」

裕作のささやく声が笑いをふくんでいる。

「モ・チ・ロ・ン！」

わざと力んで答える佳の胸には、裕作と二人きりで快樂をわかちあつてゐるに似たときめきがあつた。

「ところで、ママはどう？ 収斂にはこないだろうと思つていたけれど……」

店内には、散りしほむ前の花々が放つ、あの熟れきつた芳香がたちこめていた。

「出掛けたわ。歌会があるんだつて、こんな夜になにも

……」

ひとことのようにして聞く裕作に答えた佳の言葉を押さえこむようにして、裕作が何度もうなずく。ばら色の照明の中で、佳にむけられた裕作のまなざしは、おだやかにならんでいた。

佳は、妻の蘭子との間に必ず一定の距離をおき、決して怒つたり悲しんだりといつた感情の起伏を見せぬ裕作を歎がゆいとおもう。

——なぜなの？ パバ。なぜ？ 愛していないからなの？ わたしは、ママのことについてだつたら何でも知つてゐるこの地方都市で、恥ずかしげもなくスキヤンダルを振りまきながら、軽薄な文化人すらをして生きているママ。近ごろのママは、またうきうきしはじめたようすだけ想像するところ、新しい作品が若い世代の歌よみに受け入れられたらしく、それと時を同じくして、彼等、若い歌人の一人と四、六時中くつついて、口さがない連中がたむろする巷に出没するらしいではないか。そんなふうにして、ママはわたしがもの心ついた頃からずっと、パパの名前を傷つけつづけているのだ。だのに、パパはどうしていつもママをゆるすの？ パバ、どうして？ ——父と娘が、まるで恋人同志のように恥らいながら二つのグラスを触れあわせたあと、コハク色のワインを唇にはこびながら、言葉にならぬ問い合わせの胸に問ひ続けた佳であつたが、突然、ある一つの声が電流がつなぬき通るよう自分を衝撃するのを感じ、低い叫び声をあげた。声は、絶叫するよう細く鋭く佳の内側のパイプをつらぬいたのだ。

——お父さん。たつた一度のあやまちだけで、そんなにきびしく裁かないで。あなたに一体、お母さんを裁く権利があるの？ お願いだからお母さんをゆるしてあげて。私が死んでしまつてからでもいい。ゆるしてあげて、ゆ

るしてあげて！

あの声、そうだ、蘭子の部屋から見つけだして、息つくひまも惜んで読んだ由佳子の手記に、ほとんど絶唱のよう書かれていた言葉。いま佳がその言葉につらぬかれているように、父の裕作は、何年も何年もその言葉に金縛りにされて生きてきたのではないだろうか。あの娘に先立たれた老人の神からも見放されたかとおもえるおぞましく孤独な姿。

父は、人間が不 당に持たされている裁くという権力をふりかざすことの代償の大きさを目のあたりに見て、巧妙にその苦い行為をさけて通ってきたのではなかつた。



店の雰囲気は、佳のファザー・コンプレックスから波生する母視嫌悪症と文化人嫌いの性状を刺激して具合が悪かつたけれど、出されてくる料理は抜群であつた。蘭子が作るインスタント料理にうんざりしている佳は、スープ、焼肉、サラダ類のすべてを盛んな食欲でたいらげていつた。裕作

は、むさぼり喰う佳のようすを喜こばしげな表情で見ていたが、やがて、頃あいをはかつてゆつくり立上つた。

戸外は、すでに人通りが絶えていた。赤く塗つた古風なボンボリ風の街灯の淡い光りにうきあがる街路樹の若芽におおわれたしだれ柳の枝が、水の流れ落ちる涼味を感じさせる。

くちくなつた腹は、幸福感につながるのか。初夏の歩道を、裕作と並んで歩きながら、佳は、ついに父が帰つてきて佳の側にいるのだという確固とした実感にひたりきることができた。

——帰ってきたのだ。パパが、側にいるのだ。明日も、明後日も、その次の日も。パパは、わたしと一緒にいるのだ——

佳は、みたされていた。幸福だった。もう蘭子のことなど、どうでもよかつた。

しかし、とある街角にきたときである。流しのタクシーが、すいつくようにな佳の横で止つたのである。裕作が合図したのだ。裕作は、佳一人を車に乗せていった。

「パパはまだ会社に仕事が残つてゐるから、ケイ、先に

帰つていなさい」

途端に、佳の幸福感でふくらんでいた胸はなえしほんだ。

——うそ、パパ、うそだ！

黒い絶望の声が、がらんどうになつた胸のほこらで響きあう。

——あの人のこところへ行くんでしょう。後生大事に持ち帰つた洋酒のビンを手土産にして——

佳の脳裏に、骸骨の風貌で佇立する夜の古寺、願成寺と奇妙な老人の顔がうきあがる。——わたしにかくしてなぜゆくのパパ。あのお寺に行くのだつたら——

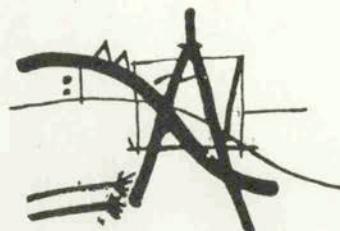
「パパ、わたしも一緒にゆく。わたしも連れていくつ

「馬鹿言いなさい」

強い力で、車のドアが外から閉つた。やがて、夜の歩道に哀願するまなざしでたたずむ裕作を、けり離すようにな、佳を乗せた車がスタートした。

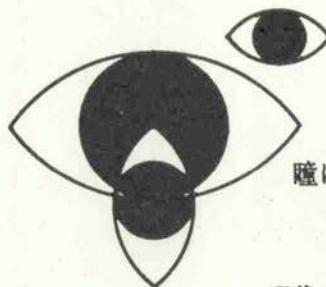
(つづく)

額縁絵画・洋画材料
室内工芸品



末積製額

三宮・大丸北
トア・ロード
(331)1309-6234



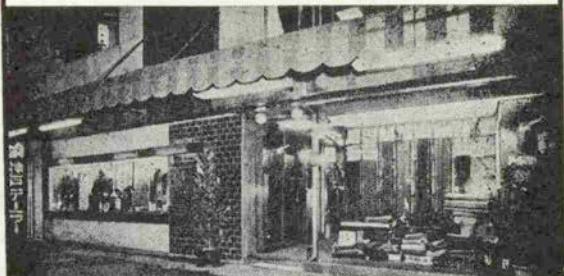
瞳に美しさを保つ
スポーツに
美容に
現代の科学が生んだ
コンタクトレンズ

日本コンタクトレンズ協会会員
国際コンタクトレンズ研究所

神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一(三宮駅前)
神戸国際会館内 TEL(221)8161・(231)2570

高級紳士服専門店

神戸テーラー



さんちかメンズタウン TEL(391)0388
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL(331)2817-3173

おもし
てんぶら



本店
燐

支店
さんちか味のれん街
TEL(391)5233
(毎週水曜日休み)
5 6 7 7 2
3 3 4

一
彌



営業時間
A.M.11.30～P.M.9.00

オリジナル L サイズ

草履新発売

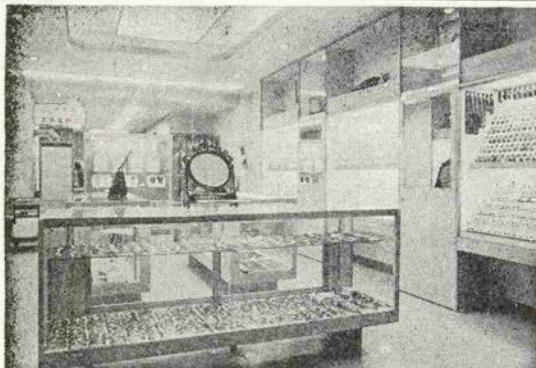
創業明治二十一年
履物の山下
古い老舗に新しいセンス

確実正札 完全冷暖房
静かに品選びの出来る店
神戸三宮センター街 TEL(391)0256



ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを！

三恵洋服店
元町4丁目 TEL(341)7290



べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

太田鼈甲店

元町1丁目 TEL(331)6195



Mr. Kent
came to Kobe
流行に左右されない
本来のオシャレ
それがKentです
シックな
スコッチ風の店舗
それがFunakiyaです

Kent shop
七才屋

元町3 TEL(321)0356

でんわ・
321 321 331
一一〇六三七七一
六三四五

コアベ三宮
ササシ

やつぱりうまい
むさしのとんかつ

およろこびの日の
心からの贈り物に
カメリヤの人形を！

おもちゃの
カメリヤ

三宮方面でのお買物は……
さんちか店 ファミリータウン (040) 44969
三宮セントラル街大洋劇場東隣
元町方面でのお買物は……
元町店 元町通3丁目山側 (009) 07680
パンクウ店 元町通1丁目不二家前 (009) 07680

ドイツ風
居酒屋

keller

生田区北長狭通
2丁目12-67
TEL 391-1590

酒徒なれば
だれもが選ぶ
大黒正宗

清酒 大黒正宗
安福又四郎商店醸

スタンド
千 景

生田区中山通2丁目75伊藤ビル3F
TEL 331-9592



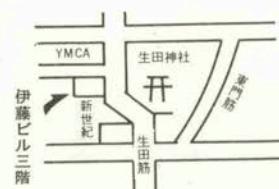
★生田神社西門にある伊藤ビルの3階に、スタンド“千景”が誕生しました。

3階エレベーターのすぐ前にある扉を押すと、シックなKOBEらしい落ち着いたインテリアの中から“いらっしゃい”とママの河野千景さんが声をかけてくれる。和服のよくにあう可愛い感じのママ。バーテンの中西貞成さんも14年のキャリアが、自然に店の中をリラックスなムードにしている。その他に女の子が3人。

「まだカラーが出来あがっていませんけれど、これからいらっしゃるお客様に合わせてじょじょに店づくりをしますわ」と。

水割り（ミネラルウォーター）オールド400円、ピール300円、スコッチ600円、バーテンの中西さんによる毎日変る小鉢物も魅力の一つ。ビジネスマンや中年の人々にも人気がある。

営業時間午後6時-12時。



DRINKING

クラブ
ジャルダン

生田区中山手通1丁目111
TEL 331-8589



★9月の神戸は青空に始まり、神戸の夜は「ジャルダン」で涼いが始まる。三宮生田新道の大陸飯店を北に上ると左手、トントンと階段を界りつめるところにクラブ「ジャルダン」の花園が待っている。

カウンターで酔なパートンさんを相手にするもよし、ボックスで気楽にグラスを傾けるもよし、またギターに合わせて歌うもよし、日頃のウサもふっくれる楽しい花園だ。きれいな花に囲まれて飲む酒も静いを誇る。

マスターの岩戸秀能さんことガンちゃんのキップの良さが店に反映して、さわやかなクラブとなっている。

神戸を訪れる人の多い昨今、さあこんなクラブが神戸もあるのですと気楽に誘い連れてこれる安心な店だ。ガンちゃんと親しくなるほどに店の良さが分るというから、得なマスターである。

午後6時から12時まで。



武田繁太郎
え・横塚

曲線ハイウェイ



★あらすじ 浜名湖サービスエリアで、多木洋介は若い神戸の女性、宇津康子と知り合い、一夜を過ごした。その後も、十日か半月おきにディートの電話をかけてくる康子と、多木はMVハーデトップを駆って逢瀬を重ねた。康子の正体を知るため、多木は神戸出身の友達、岡本和彦とその女友達ルミと共に神戸へやって来た。康子の居所を見出せぬ多木は、彼女の面影に似た辰馬英子を紹介された。典型的な神戸っ子である英子に案内されて、神戸の街に出た二人は「デリカテッセ」やガード下の靴屋街を歩いた後、六甲山をめざした。

芦有道路は、幾折りにも屈曲しながら、急勾配に六甲の尾根をめざしていく。

ふりむくと、もういつのまにか、下界は遥か眼下に沈み、その彼方に、大阪湾が青いひろがりをみせていた。ついさっきいた神戸の街ながら、あつというまにこの山上まできていた感じであった。しかも、六甲山は、標高千メートルもあるという。

「いいなあ」

多木は、思わずつぶやいていた。

東京にこんな山があれば、どれほどたのしいだろう。むろん、東京の周辺にも、探せば、千メートル級の山がないわけではない。丹沢山系の大山、塔ヶ岳、奥多摩の大菩薩嶺、あるいは秩父の三峰山など、高さからいえば、六甲山よりも高い。だが、どの山にも、車でドライブをたのしめるような

道一本ついていなかつた。あるのは、せいぜいハイキン
グ・コースぐらゐのものであつた。

将来ドライブウェイができたとしても、いずれも、東
京都内から、往復でたつぱり一日もかかつてしまふほど
不便で、遠い。時間的には、箱根あたりのほうが、むし
ろ近かつた。

だいいち、これ東京周辺の山々は、東京の市民たち
は自分たちの山だといつた親しみを与えていなかつた。
六甲と神戸の市民たちとの結びつきとは、まるきりちが
つてゐるようであつた。

「高村千恵子は、東京には空がないと歎いたけど、東京
に山がないことも、東京の連中には不幸なことだつたと
思うな。こうして六甲のようなこんな山に登つてみると
つくづくそんな感じがしてくるな」

「その点、あたしたちは恵まれてるわね。海も近いし、
山も近いし」

「そうなんだ。東京は、空もなければ、山もない。海だ
つて、晴海埠頭の品川埠頭だの、ゴミの島だのと、市
民たちが気がるに近よれるような海もない。あるのは、
人間が、おしゃいへしゃい、虫ヶラみたいに這いつくば
つて生きている」

「東京にやたらと高層ビルがふえているのも、東京の人
たちが、その地べたからすこしでも這いあがりたいと思
うからか知ら？」

「そうかも知れないな。だけど、現代人にバベルの塔は
建てられない。高層ビルといつたところで、せいぜい百
メートルか二百メートルだ。虫ヶラが、ピヨンと、地べ
たから跳ねあがる程度じやないか。こういう自然の山が
持つてゐる高さには、及びもつかない」

多木は、行手にそびえている六甲の山上を仰いで言つ
た。

「人間は、ときどき、高い山にでも登つて、その頂上か
ら下界をみおろし、そこに住んでいる自分の姿を、なが

めなおしてみる必要があると思うんだ。自分というもの
を見失わないためにね。神戸の人たちは、こんなすばら
しい山を持つてゐるけど、東京には、その山がない。だ
から、東京の連中は、しだいに自分の心を失つてゐるの
かも知れないな。いや。話がどうも理窟っぽくなつてしまつた」

多木は、自分で苦笑した。

しかし、彼自身にも、こうして東京をはなれて、見知
らない土地で、東京というものをふりかえつてみるい
チヤンスだといえた。これも、旅にでることの収穫なの
かも知れなかつた。

どこか遠くへいきたい、と、旅にでることが、多木た
ち若い世代の大きな魅力になつてゐる。これはけつして
レジャーブームなどといった流行現象のせいだけではな
かつた。

若者たちは、どこか遠くの見知らぬ土地へ旅すること
によつて、ともすれば都会の喧嘩のなかで見失いがちな
自分の心を、どもどそと願つてゐるのだ。

二人を乗せたPスポーツは、昔有道路から、六甲の尾
根づたいにのびてゐる東六甲ドライブウェイにはいつて
いた。

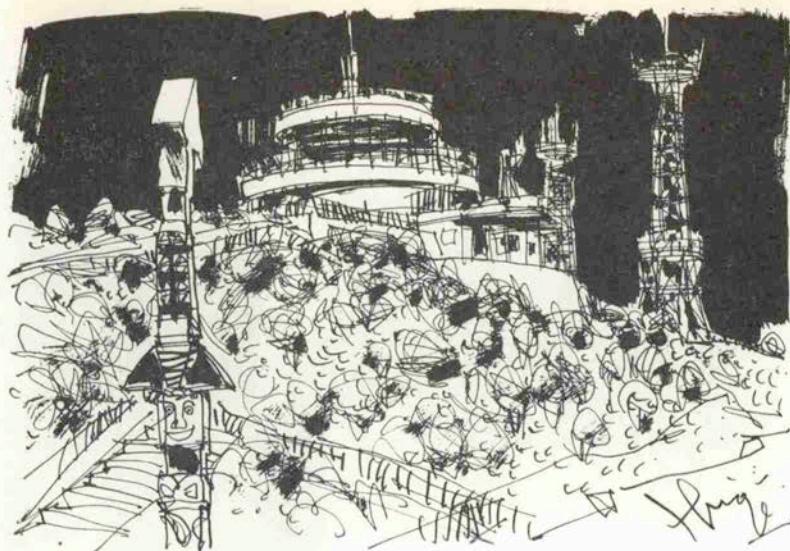
頭上は、ロープウェイの索が、ゆるやかな弧をえがいて
走つてゐる。これは、有馬へ通じてゐる。日本で最長
のロープウェイだという。なるほど、日本最長らしく、
ドライブウェイにめんして、カンツリー駅という途中駅
まであつた。

このあたりは、表の南側よりも、むしろ裏側の有馬方
面にかけての眺望がすぐれてゐるように、多木には感じ
られた。

「このすぐ下に、多木さんが泊つてゐるOホテルとおな
じ経営の六甲Oホテルがあるわ。ちよつと寄つて、お茶
でも飲んでいきましようか」

英子が誘つた。

Pスポーツは、東六甲ドライブウェイから、ひろい高



山植物園のわきを左折して、六甲Oホテルをめざした。

ホテルの手前に、しゃれたレストランがあった。このレストランも、神戸の有名なクラブの経営で、夏のシーズ

ンに店をひらいているという。

「この山は、たしかに、神戸の市民たちの裏山なんだな

ホテルやクラブも、ちゃんと出店をだしている」

六甲Oホテルで、ひと休みしてコーヒーを飲みながら多木は、あらためて、神戸の市民たちがこの山にそそいでいる愛情の深さを、この目でたしかめたようと思えた。

「景色をながめながら、なにか食べたくなったな。この

ホテル、どお？」

「もちろん、食事もできるけど、多木さん、ジンギスカ

ン料理お好き？」

「好きだよ。ここで食べさせるの？」

「ええ。ここでも食べさせてるけど、この先に、もう一

軒、Rホテルというのがあるの。Rホテルでも、屋外でジンギスカンを食べさせるから、そのほうへいってみま

しょうか」

コーケービーフの本場で、羊の肉を食べるのも、また一興だろう。二人は、六甲Oホテルをあとにして、六甲ゴルフ場をとり囲むようにしてのびてあるサンライズ・ド

ライブウェイにはいった。

この六甲の連峰には、こうした幾本ものドライブウェイが、縦横にのびているという。

さつき二人がとおってきた東六甲ドライブウェイは、高山植物園のわきからサンセット・ドライブウェイにつづき、いま一人が走っているサンライズ・ドライブウェイと、表裏をなしていた。

このサンセット・ドライブウェイは、さらに尾根づたに西六甲ドライブウェイにつづき、神戸市の裏手までのびていた。

山麓からの登り口も、東の芦屋から、阪急の六甲、さらには、摩耶、再度山と、四カ所ほどもあるという。これほど美しい自然をのこしながら、これほどドライブウェイの開発された山は、国内ではめずらしかったろう。

阪急の六甲からのびている表六甲ドライブウェイは、六甲の尾根をこえると裏六甲ドライブウェイになり、芦有道路と平行する恰好で、有馬までつづいていた。

Rホテルは、このドライブウェイのすぐ近くにあった。

このホテルでは、ジンギスカンを年中だしてあるといふ。二人は、さつそく屋外で、ジンギスカンのナベをかこんだ。

「空気はすんでもし、眺めはひろびろしているし、ジンギスカンも、こういう山のうえで食べると、味がちがつ

てくるな」

多木は、嘆声をあげていた。

ジンギスカン特有の臭みも、こうして開放された屋外の空気に吸収されて、ほとんど匂ってはこない。

山上のホテルでゆっくりジンギスカンをたんのうしてから、二人は、さらに、摩耶山をめざした。

西六甲ドライブウェイから、三国池を右手にして、反

対側を南にくだつていくと、ユースセンター・ヨーロッジの建物があり、道をへだてて右手は、観光牧場になつてい

た。

二人は、ここで、しほりたてのミルクを飲んでから、

付近の山道を散策した。

「なるほど。ここからだと、神戸の街なみがひと目でみわたせる」

二人は、見晴しのいい丘の一角に、ならんで腰をおろした。

さつきとおつてきた東六甲ドライブウェイあたりから

いて、神戸の街の全貌をみるとことができなかつた。神戸よ

りもむしろ、西の宮から大阪あたりの眺望がよかつた。

多木は、港は、横浜港しか知らない。ひさしぶりに接

する港の風景であった。

「いいなあ。」

多木は、港は、横浜港しか知らない。ひさしぶりに接

する港の風景であった。

「いいなあ。」

多木は、胸をふるわせるようにしてつぶやきながら、

思わず、英子の肩に腕をもたせかけていた。(つづく)

だが、神戸の真うしろにあるこの摩耶からは、眼下に神戸の中心が望めた。ちょうど真下に、摩耶埠頭の三本の巨大な突堤が、大阪湾につきだしていた。

摩耶突堤の右手には、摩耶大橋でつながれて、幾本もの突堤がならび、そのむこうに、ポートタワーがくつきりと浮んでみえた。

突堤にも港内にも、大小さまざまの船が碇泊していて

港の活気のみちた空気が、この静かな山上にまで伝わつてくるようである。外国の観光船らしい、白いスマート

な客船もみえた。

「いいなあ。」

多木は、港は、横浜港しか知らない。ひさしぶりに接

する港の風景であった。

「いいなあ。」

多木は、胸をふるわせるようにしてつぶやきながら、

思わず、英子の肩に腕をもたせかけていた。(つづく)

◇神戸の催し物 9月ご案内◇



◇音楽◇

★渚ゆう子神戸特別公演

9月2日(木) P.M.7:00開演

神戸国際会館

入場料 A 1,500円 B 1,200円

C 800円

★ザ・ビーナッツ オン ステージ

9月9日(木) P.M.7:00開演

神戸国際会館

民音 会費 900円

★ポートジーピリー

9月11日(土) P.M.6:00開演

神戸国際会館

入場料 350円

★マアラント楽団

9月20日(月) P.M.6:30開演 神戸国際会館

労音会費 1,300円

歌手手ディディ・カソリ プログラム/碧空、夜のタンゴ、小さな喫茶店、ほらのタンゴ、ジェラシー、ラ・クンバルシータ他

★伊藤京子、立川遼人、ジョイントコンサート

9月21日(火) P.M.7:00~9:00 神戸国際会館

入場料 A 1,200円 B 1,000円 C 800円 D 600円

★ヘンリーマンシニースクリーン・ラブ・テーマ

9月23日(木) P.M.7:00~9:00 神戸国際会館

民音 会費 A 1,800円 B 1,300円

★ジョン・ウイリアムズギターリサイタル

9月25日(土) P.M.6:30開演 神戸国際会館

労音 会費 1,300円

★新進音楽家による協奏曲の夕

9月27日(月) P.M.6:30~9:00 神戸国際会館

入場料 700円 指揮 渡辺曉雄

<演劇>

★文学座公演「ごりえ」

9月16,17,18日 P.M.6:15~9:00 神戸国際会館

労音 会費 700円

水木洋子作 戸井市郎演出

出演者/杉村春子、荒木道子、三津田健、高原駿雄他

<舞踊>

★創設10周年記念'71兵庫県芸術祭

創作邦楽と舞踊の会

9月15日(水) P.M.12:00、5:00開演 神戸国際会館

入場料 一般 1,000円 学生 300円

★藤間流舞踊勉強会

9月19日(日) P.M.10:30開演 神戸国際会館

入場料 800円

★第25回共同募金舞踊公演会

9月24日(金) A.M.11:00~P.M.8:00 神戸国際会館

入場料 1,000円

<その他>

★創設10周年記念'71兵庫県芸術祭 歌舞伎

9月6日(月) A.M.11:30、P.M.5:00 神戸国際会館

入場料 A 1,200円 B 800円 C 500円

歌舞伎十八番 進帳はか

★ドリフターズによる全員集合!!

9月29日(水) P.M.2:00、7:00開演 神戸国際会館

民音 会費 1,000円

★オペラ「カルメン」全幕

9月30日(木) P.M.6:30~8:30 神戸国際会館

民音 会費 1,200円

神戸のうまいもんとドリンク

★日本料理

阿なご寿司 青辰
神戸市生田区元町通3-184
TEL 331-3435

讃岐名代うどん あこや亭
神戸市兵庫区旗塚通7-5
アロード店 TEL 231-6300

和食くれなーい
神戸市生田区中山手通1-1-111
TEL 331-0494

かつばう 古紋
神戸市生田区花陽町45
TEL 341-0240

鍋もの、おむすび
お茶漬、かはら
神戸市生田区北長狭通1の20
TEL 331-3848
三宮さんちがタウン TEL 391-5319

お茶漬・おむすび
鍋もの 小る里
神戸市生田区北長狭通2の1
TEL 331-5535

たこ焼たちばな
三宮センター街(旧柳筋) TEL 331-0572

和風料理 樂樹
神戸市生田区下山手通3丁目41
トアロード西筋路交通入る TEL 391-8649

料亭 大し
兵庫区熊内町6丁目39の6
TEL 221-1360・1945

割烹喜久重
生田区元町通2丁目82
TEL 331-1915・391-3385

★西洋料理

レストラン アボロン
神戸市兵庫区八幡通5丁目6
TEL 251-3231

レストラン 川あらかわ
神戸市生田区中山手2-9
TEL 221-8547・231-3315

純フランス料理 エスカルゴ
神戸市生田区三宮町1-22
三宮センター街裏 TEL 331-5034

メンバーズクラブ
レストラン・コーヒーショップ ルカ・カルトン
生田区北野町3-67-2
TEL 241-4321-4

ステーキハウス れんが亭
神戸市生田区下山手通2丁目34
TEL 331-7168

レストラン 男爵
神戸市生田区中山手1-18
山手第一ビル1F TEL 241-0778

レストラン 花屋敷
三宮フワーロード市役所前
TEL 251-2109

鉄板グリル きやんどる
神戸市生田区北長狭通2-22
TEL 331-1183

レストラン キングスアームズ
神戸市兵庫区磯通4-61
TEL 221-3774

クリル ケーンズ
東店 生田東門筋 TEL 391-0159
西店 農業会館西下ル TEL 391-3212

レストラン シャトーブリアン
神戸市生田区北長狭通3丁目5番地
トアロードアーバンビル地階 TEL 331-2050

レストラン&バー サン・ジュリアン
神戸市生田区栄町2丁目11 阪神元町駅西口浜側
100米桜荘地下 TEL (331) 9533

グリル・鉄板焼 月
神戸市生田区北長狭通1-24
生田神社前 TEL 33-2509

ビーフステーキルーム 則竹
トアロード ミズキビル1F
TEL 331-9580

イタリア料理 ドンナロイヤ
神戸市生田区明石町32
明海ビル地階 TEL 331-7158

レストラン ハイウェイ
神戸市生田区下山手2-20
TEL 331-7622

ピツアハウス ピノッキオ
神戸市生田区中山手2-101
TEL 331-3545

レストラン フック東店
神戸市生田区栄町1-5-3
TEL 321-3207

ティー レストラン 那寿
三宮トアロード
TEL 391-1873

レストラン ミリオナーラブ
生田区山本通2丁目50の2
レストラン 231-9393-5
メンバーズ 221-1162

レストラン ボルドー
生田新道浜側中央KCBビルB1F
TEL 331-3575

★喫茶 フォーラン
ウェスタン
ローストシティ
神戸市生田区三宮町3丁目22
TEL 331-3770

宮水の
コーヒー
にしむら珈琲店
中山手店 神戸市生田区中山手通1丁目70
TEL 221-1872・231-9524
センター街店 神戸市生田区三宮町2丁目35
TEL 391-0669

modern Jazz & Coffee
サリゲなく
& Coffee 生田区北長狭2-22 TEL 331-9762

カブエ・スポット サンフラワー
神戸市生田区花時計地下
TEL 331-7794

★CLUB & BAR 阿以子
神戸市生田区中山手2丁目89
TEL 331-6069

club 飛鳥
神戸市生田区中山手1丁目117
TEL 331-7627

club S^ス
神戸市生田区下山手通2丁目6
TEL 331-2406・331-8993

エドワーズ俱楽部
神戸市生田区北長狭通1丁目28
ホワイトローズビル5・6F 生田新道
TEL 391-3300

club 小万
神戸市生田区東門筋中島ビル3F
TEL 391-0638・4386

club さち
神戸市生田区中山手通2丁目75
TEL 331-7120

クラブ ジャルダン
神戸市生田区中山手通1丁目111
TEL 331-8589

club ルイス
神戸市生田区下山手通2丁目29
コベビル地下 TEL 391-5065

クラブ 鈴
生田区中山手1丁目111 TEL 331-2403

club なぎさ
神戸市生田区中山手通1丁目111 TEL 331-8626

club 路ふき
神戸市生田区下山手通2丁目 TEL 391-1515

くらぶ ぶーげん
神戸市生田区中山手通1-1-111
TEL 331-8593

club Moon Light
神戸市生田区北長狭通1丁目24
TEL 331-0886・391-2696

クラブ ふらん
神戸市生田区北長狭通1丁目53
TEL 331-2854

クラブ ヤングペール
神戸市生田区中山手通2丁目89
光ビル1階 TEL 331-3052

★STAND & SNACK

スタンド 英国屋
生田区下山手通2-6 相互タクシーハイ
TEL 331-1100・331-6600

スナック エルソタノ
神戸市生田区下山手通 TEL 331-6620

スタンド 人魚
生田区中山手1-240 TEL 331-3756

スタンド グラムール
生田筋岸ビル地階 TEL 331-4637

おとぎの国 びーたーぱん
神戸市生田区北長狭通2丁目1
金剛山南角 TEL 321-1380

スナックバー リチヤード
神戸市生田区山本通1丁目9
小寺マンション1F TEL 241-3041

スタンド さりげなく
生田区下山手通2丁目31
生田筋上高地西入る TEL 331-3714

グラタン小屋 5つの銅貨
神戸市生田区北長狭通2-14
金剛山西入ル TEL 391-1438

スナック ピジービー
神戸市生田区中山手2丁目
TEL 391-4582

スタンド 京子
生田区中山手1丁目91サッポロ西園2F
TEL 331-6635

ドリンクスナック 薔薇屋
生田区北長狭通5丁目19-4
TEL 351-4311

洋酒の店

キヤンティ
神戸市生田区北長狭通2丁目3
TEL 391-3060・391-3010

スネカリッ子
神戸市生田区下山手通2丁目
水見ビル1 TEL 391-8708

サントノーレ
生田区下山手通2丁目ア、ロード
TEL 391-3822

でっさん
神戸市生田区北長狭通1丁目258
三宮映劇山入る TEL 331-6778

アトラス
生田区中山手通1丁目195
TEL 331-5433

バレンタイン
神戸市生田区中山手通2丁目101
大洋ビル2階 TEL 321-2967

ファンファン
神戸市生田区下山手通2丁目29
TEL 391-1410

ガストロ
神戸市生田区中山手通3-20
トアマンション TEL 231-0723

クラブ・ガーデニア
神戸市生田区中山手通1丁目115
東門筋島ビル2F TEL 391-3329

山の手
神戸市生田区中山手通1丁目
ソネビル1F TEL 221-3637

姿羅
(SARA) 羅
生田区中山手1丁目91
TEL 391-1647

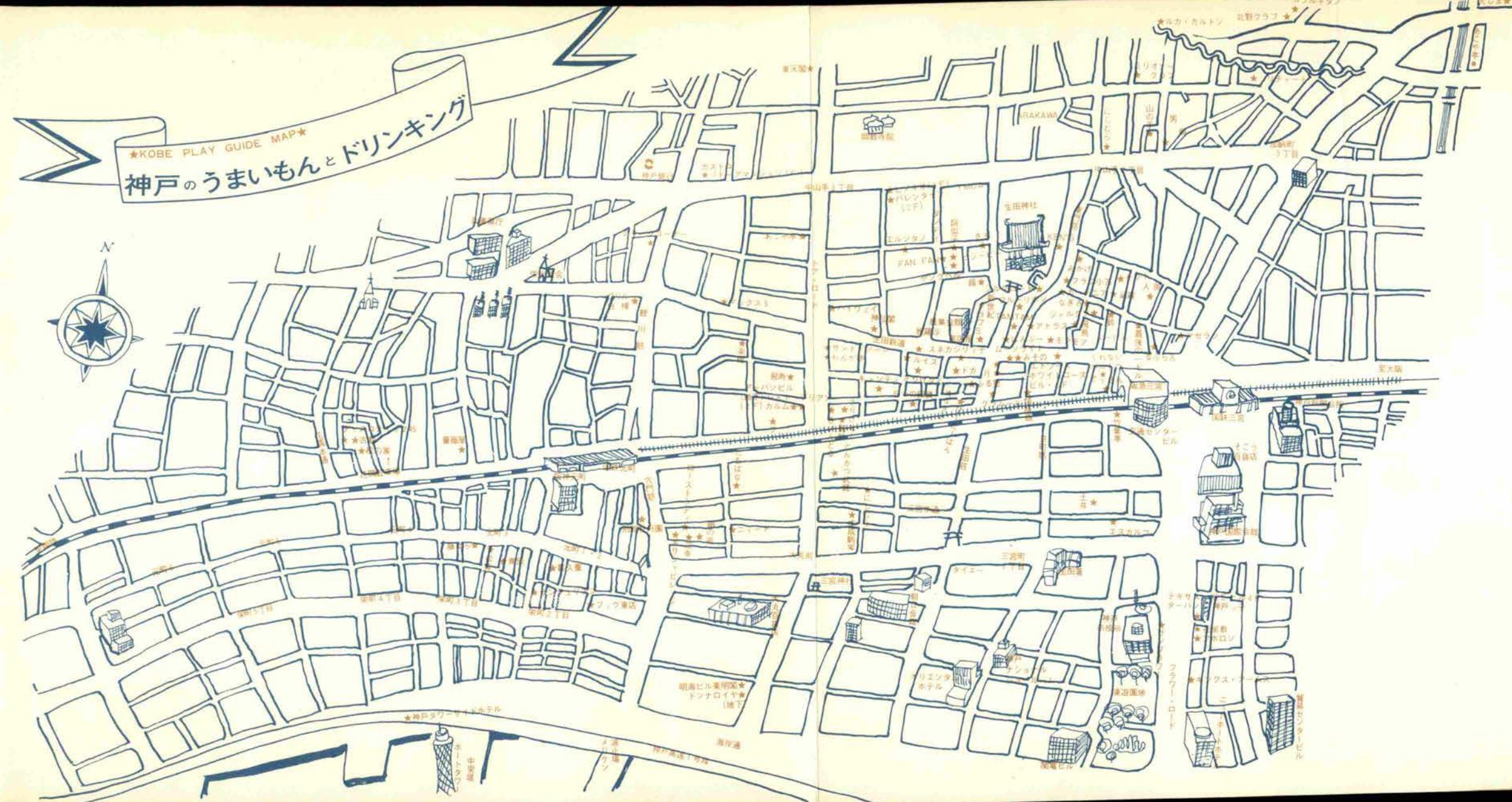
ダントイ
神戸市生田区農業会館西筋上ル
天野ビル2F TEL 331-6450

マゼラン
神戸市生田区加納町4丁目1
TEL 391-2366

MORE MORE
神戸市生田区中山手通1丁目107
TEL 331-4728

最後の1ドル
神戸市生田区北長狭通1丁目
チエリービル3F
三宮生田新道山側 TEL 391-2173

PIZZA & Snack マツクス5
神戸市生田区下山手通3丁目16-3
福ビル2F
TEL 391-8959



LET'S SING!

Gratin hut

DIAL 391-1438

LET'S TALK!

Dream house

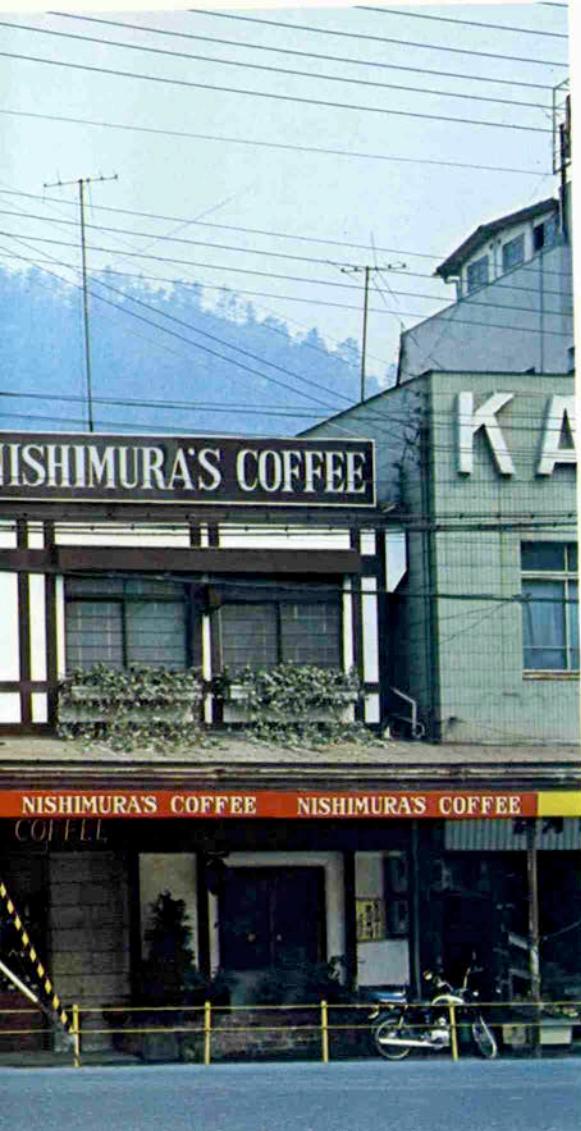
DIAL 321-1380

Robber's house

DIAL 321-1548

LET'S DRINK!





中山手／にしむら



異国情緒が懐しい中山手通り
宮水COFFEE《にしむら》の
煉瓦造りの焙煎場から漂よう
ほのやかなCOFFEEの香りに
さわやかな神戸っ子の一日があるので

宮水COFFEEの
にしむら 珈琲店

中山手本店<中山手1丁目電停前>221-1872

営業時間／平日、午前8時30分～午前1時、日、祭日、午後11時迄

センター街店<三宮センター街>391-0669 午前10～午後10時

石屋川店(阪神石屋川駅浜側)841-0763 午前8～午後10時





GHASIMRO

神戸市生田区中山手 3-20
東亜マンション 1F
TEL 231-0723



club **JAZZ**

生田区下山手通2-29
コウベビル地下
TEL 391-5065

KOBE DRINKING GUIDE

TEA & PUB

LEM

生田区北長狭通
生田新道ビル地下
TEL 321-3070



TEA & SNACK

MAX5

生田区下山手通 3 の 16
三福ビル 2F
TEL 391-8959

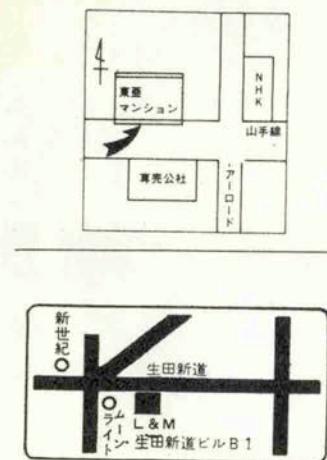


★トアロードに今度完成したNHK神戸放送会館の西、東亜マンション1Fにオープンしたのが本格派の個性的なスナック『ガストロ』だ。ガストロとはイタリア語で胃袋という意味だそう。食べて、飲んで、おしゃべりして、おもいきり楽しんでいただこうというわけで、こんなスナックが神戸にできたのは本当に嬉しい。大きなかやきのカウンターと店内のゆったりとしたスペースが飲む人に落着きを感じさせる。火、木、土、日の午後7時から11時までエレクトーンの生演奏もある。

Tea Time (A.M.11:00~P.M.6:00)

コーヒー￥150円、ジュース￥200円、カレー￥200円、スペゲッティ￥200円
Wine Time (P.M.6:00~A.M.1:00)

ビール 200円、オールド 350円 年中無休



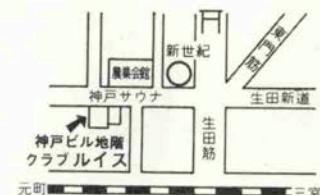
ガストロ

ルイス

KOBE
DRINKING
GUIDE

L & M

マックス5



★心よい初秋の夜風をぬって、仕事を終えたサラリーマンが生田筋界隈に吸いこまれていく。生田新道沿い、ムーンライト東隣りの生田新道ビル地下にヤングマン待望のスナック『L&M』がオープンした。赤を基調とした落着いたインテリアと、こじんまりとしたスペースは、肩を並べ、ひざを交えて飲み、話し、未知の人と友達になれる絶好の場所。酒のグラスを傾け、美しい音楽の調べに耳を傾け、心ゆくまで楽しみたい人が気軽に集える場所、それがこの『L&M』だ。

ビール￥250円、紅茶￥250円、コーヒー￥250円、ピザ￥450円

P.M.5:00~A.M.12:30まで。 年中無休

★夕やみせまる生田新道のネオン街に、勤めを終えたサラリーマンが憩のひとときを求めてルイスに足をはこぶ。

生田新道、神戸ビル地階にあるクラブ『ルイス』はデラックスなインテリアとムードあるスペースでハイモードのクラブの雰囲気を心ゆくまで楽しめる場所。柔らかなトーンのソファで、ホステスが注いでくれるグラスを傾けながらかわす会話があなたをつつみ、時間の経つのを忘れさせてしまう。神戸で初めてのハモンドオルガンが飲む人の心に音楽とリズムをよびおこし、ホステスとお客様とがひとつになって楽しめる場所、それはルイスだけのものです。こんな素晴らしい仲間にお入りになりませんか。

日曜・祭日は休みです。

★『MAX 5』 このカッコイイ名前のスナックが生田新道沿い、三福ビルの2階にあるをご存知だろうか。トン、トン、トンと階段をあがり、扉を開くとスティーブ・マックインの大きなパネルが目にとびこんでくる。こじんまりとしたスペースに若者たちのビビッドな、雰囲気があふれ、たちまち知らないもの同志が意気投合しあってしまう、そんなセンスにあふれている店だ。 カウンター席の他にテーブルもあるので飲みながら落着いて話もできる。ヤングマンなら知っておいて損はない店だ。

コーヒー￥150円、ビール￥200円、ピザ￥400円

P.M.5:00~24:00 第1、第3日曜日は休み